

20:41 すると、イエスが彼らに言われた。
「どうして人々は、キリストをダビデの子と
言うのですか。

20:42 ダビデ自身が詩篇の中でこう言ってい
ます。『主は私の主に言われた。

20:43 「わたしが、あなたの敵をあなたの足
台とする時まで、わたしの右の座に着いてい
なさい。』」

20:44 こういうわけで、ダビデがキリストを
主と呼んでいるのに、どうしてキリストがダ
ビデの子でしょう。」

20:45 また、民衆がみな耳を傾けていると
きに、イエスは弟子たちにこう言われた。

20:46 「律法学者たちには気をつけなさい。
彼らは、長い衣をまとって歩き回ったり、広
場であいさつされたりすることが好きで、ま
た会堂の上席や宴会の上座が好きです。

20:47 また、やもめの家を食いつぶし、見え
を飾るために長い祈りをします。こういう人
たちは人一倍きびしい罰を受けるのです。」

ダビデは理想とされる王でした。彼は自分の子孫
から救い主が生まれることを感じ取り、このよう
に子孫を「主と呼んで」いるのです。イエス様は人
として来られたから、すなわち誰かの子孫としてこの
世に誕生したのですから、それは必然です。

ダビデは自分の子孫でも、神の権威を認めました。
私たちは神の働きや神の立てた働き人に対しては、
自分よりも目下のものであっても、その権威を認め
る必要があります。それは神様を主とする行為であ
り祝福の条件でもあります。

それに対して律法学者は、あくまでも自分が目上
であり権威となりたがっています。「気をつけな
さい。」とイエス様が言われるように、私たちも気
をつけましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の
約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願
いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのど
の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

